

『あおにとける』 山口県立山口高等学校演劇部 2018 年度上演作品

作者 川上そよ香・浅川美代子

上演 山口県山防地区高等学校演劇発表会 最優秀賞
山口県高等学校演劇大会 優秀賞・創作脚本賞

作品紹介 取り壊される予定の旧校舎の屋上に、ある目的のためひとりでやってきた葵。ところが、立ち入り禁止のはずのその場所には先客、風花がいた。

登場人物 2人

上演許可を得るための連絡先 asakawa.miyoko.tg@m.ysn21.jp

この脚本には、県大会上演版と季刊高校演劇掲載版の2種類のラストシーンがあります。両方とも掲載していますのでお好みの方をご利用ください。

山口高校演劇部 春公演

あおにとける

作 川上そよ香

潤色 山口高校演劇部

最終版 20181110

登場人物

土田 葵

橘 風花

階段を上る足音

葵

そこは、取り壊される予定の校舎の屋上で。だれもいないはずでした。誰もいない場所を、私は探していたんです。誰にも気づかれぬように。いいえ、誰もわたしなんか気にかけるはずもなく。ひとり。ひとりである日、古い校舎に忍び込み、埃だらけの階段を登り、どこまでもどこまでも続いていそうなその薄汚れた階段の先に、そのドアがありました。何かにみちびかれるように、私はドアに手を伸ばしました。

足音とともに幕が開く。

ドアが開く音とともに明転。

屋上。葵が顔を出す。

葵、慎重にあたりを見回し、

葵

開いてる！ラッキーー！用意してきて正解だったよ。

ブランケットを広げ、楽しそうに走り回る。

ブランケットを広げる場所を探そうとして、イーゼルが目に入る。

葵
なにこれ。

荷物を置いて、イーゼルの上の絵に手を伸ばす。

後ろから声が掛かる。

風花
触らないでよね、それ。

葵、びっくり。

葵 さわってません。

風花 そう。ならいいけど。

風花、イーゼルの前に座って描きはじめる。

風花 なんでいるの。

葵 あ、いや、あの。

風花 ここ、立入禁止だよ。

葵 そうだけど、ドア開いてたし。

風花 私が開けた。

葵 え、ここ、立入禁止って、今。

風花 だからいるんじゃない。

葵 え、

風花 誰にも邪魔されないでしょ。

葵 あー・・・おじやま、ですかね。

風花 じゃまだね。

葵 すみません。

葵、帰ろうかどうしようかまごついてると、

風花 見てるだけならいいよ。

葵　じゃあ、
風花　ただし、視界に入らないで。
葵　はい。

葵、風花の後に見ている

風花　気になるなあ。

葵　あ、視界に入ってしまったか。

風花　じゃなくて、

葵　はい？

風花　気になるでしょ、ふつう。

葵　？

風花　誰もいないはずの、立ち入り禁止の屋上なんか、何しに来たの、きみ。

葵　何しに……！

葵、何かを思い出した。フェンスに駆け寄って。

葵　止めないで！

風花　はあ？

葵　今から死ぬから！

風花　ばかなの？

葵　！そうやってみんな私のこと馬鹿にするんだ！わたしなんていららないんだ！死んでやる――！

風花　へえ、そう。

葵　・・・いや、そんだけ！？

風花 なに？もつとなんか言ってるほしい？

葵 引き止めてもよくない！？

風花 引き止めて欲しかったんだ。

葵 そういうわけじゃあ、

風花 なんでもいいけどさ。いま、ここで、ってのはやめてくれない？

葵 あ・・・はい。

風花 目の前で飛び降りとかさ、後々まで夢に見そうじゃん。迷惑だからやめてよね。

葵 じゃあ、あなたのいない時ならいいですか。

風花 まあね。

葵 出直します。誰もいないときにまた来ます。

風花 誰もいない時なんてないよ。

葵 え。

風花 いつでもいるから私。

葵 毎日？

風花 毎日。

葵 いつでも？

風花 いつでも。

葵 絶対にいるの？

風花 絶対に。

葵 雨が降っても？

風花 もちろん。

葵 そんなはずないでしょ。

風花 ほんと。雨が降ろうと、槍が降ろうと、絶対に毎日いるから。

葵 うそだ

風花 本当です。

葵 槍は降らないよ。

風花 は？

葵 いつもいるなんて、迷惑く。

風花 どっちが迷惑よ。あのね、よく考えて。こんな学校の屋上から落ちて死んだらどうなるか。

葵 どうなるの。

風花 警察沙汰。自殺？いじめか？犯人はだれ？ 学校の責任は？ 親は何してた？ 謝罪、追求、真実は？

噂が噂を呼んでもう何が何だか、マスコミの餌食になるクラスメイト、家族の崩壊——（延々続き

そうナネガティブループ）

葵 いやー、えげつない。よくそこまで最悪の状況思いつくね。

風花 思いつくでしょ、ふつう。

葵 考えたことなかった。

風花 やっぱり、馬鹿？

葵 馬鹿じゃないよ。

風花 どーせ、くだらない一時のきまぐれでしょ。やめときなつて。

葵 気まぐれなんかじゃないよ。本当に、死にたくなるような事情があんのよ！

風花 どうな？

葵 あのね、友達はいないし、クラスでも無視されてるし、先生は気づいてくれないし、母さんに相談しても適当に流されるし、父さんなんてそもそも口もきかないし、成績悪いし、これと違ってやりたいこともないし、えーと、それからね、

風花 それだけ？

葵 それだけって。

風花 やっぱ馬鹿じゃん。

葵 ・・・。

風花 君さ、本当は死のうなんて思ってたんじゃない？

葵 そんなことないよ、本気だよ！

風花 じゃ、あれは？

と、葵が広げた持ち物に目をやる。ピクニックかと思まごう屋上のありさま。

葵 あっ

風花 なに？ ピクニック？ ひなたぼっこ？

葵 そんなことないし！本当に死のうと思つて、いいタイミングがくるまで、ここでちょっと時間をやり過ごそうと・・・。

風花 タイミングってなに。

葵 ー。

風花 ほんつと、冗談は一回死んでからにしてよね。

葵 なんなのよさつきから！あんたに関係ないじゃない！

勢いで柵を乗り越えようとする。

風花 ちよ、勢いでそんなやめてよ。

あわてて葵を柵から引き剥がす。

葵 私がどうしようと私の勝手でしょうが！（暴れる）

風花 この流れで死んだら私のせいじゃん。

葵 あー、そうか、自分に累が及ばないように止めてるだけなんだ。

風花 そりやそうでしょ。

葵 どうせ私なんていらなんだ！ 生きてる意味ないんだ！

風花 目の前で死ぬなってゆってんじゃん！（葵を押さえる）

葵 うるさい！ 離して！！

風花 いいから聞け！！（なんらかの技、もしくは何かで殴る）

葵 いったあ・何よ！ 殺す気！？

風花 だめだ、本物の馬鹿だ。こっちがやられそう。

葵 ・・・

風花 さびしんぼうか。

葵 なに？

風花 きみ。自殺志願者、というより、ただの寂しがり屋、でしょ。

葵 ・・・

風花 聞いてあげようか。

葵 え？

風花 本当はただ話を聞いてくれる友達が欲しいだけなんじゃない？

葵 友達になってくれるの？

風花 これが友達かどうかは知らないけど。話せば？ 聞くよ。

葵 友達だ！

風花 ただし、条件付きで。

葵 え？

風花 まず、毎日必ずこの屋上にくること。

葵 さつきもいったけど、いつもここにいるの？

風花 うん、いつつもあるよ。朝からずっと。

葵 え、授業は？

風花 出ないよ、そんなの。

葵 やばくない？

風花 べつに。

葵 ふーん。

葵、まじまじと風花をみる。

葵 あ、もしかして、不良？

風花 君ねえ、

葵 わかった！ 毎日私をここに呼んで、・・・カツアゲ??

風花 本物のバカだよ、君。

葵 友達とかいって、ほんとはお金目当てでしょ！

風花 違うって！ 話し相手だよ、友達。ほしくないの？

葵 ・・・ほしい、です。

風花 じゃ、一日一回ここにくること。

葵 うん。わかった。

風花 あ、お菓子持ってきてね。お菓子をもって一日一回。

葵 やっぱカツアゲじゃ・・・

風花 何か言ったー？

葵 ・・いえ、なにも。

風花 んで、二つ目。

葵 えっ、二つ目あるの。

風花 私が描いてる時は邪魔しないこと。

葵 描いてる時。

風花 そー。この通り私は絵描きなので、邪魔はしない。

葵 ここには絵を描きにきてるの。

風花 今まで何見てたの。どう見ても絵描いてる人でしょうが。

葵 じゃ、私は何してればいいの？ 話しかけると邪魔なんですよ。

風花 なんかテキトーに時間つぶして。

葵 あ、課題やっつく。そうする。

風花 課題？真面目か！

葵 やらないといけないものは、やらないと。

風花 それ、さっきまで死ぬ死ぬ言ってた人の言葉？ えっらく前向きなんだけど。

葵 やらないと気持ち悪い。

風花 それが気持ち悪い。

葵 邪魔にならなきゃいいんですよ。

風花 ・・まーね。よし、最後。

葵 まだあるー。

風花 最後だから。

葵 はい。

風花 一日一回、私を笑わせること。

葵 えっ、なにそれ。

風花 そのまんまだよ。

葵 ・・なんか、へたくそなプロポーズみたい。

風花 ・・はあ？

葵 ほら、あるじゃん、『オレに味噌汁作ってくれ。』とか、『私を一生、笑わせてね。』みたいなもの。

風花 知らん。

葵 ドラマ見ないの？

風花 見ないね。見たとしてもそんな古くさそうなのは見ない。

葵 あのねあのね、うちに母さんが好きだった昔のドラマが録画してあってさ、

風花 はい、いいから、君が、私を、笑わせてね。一日一回。笑わせるまで帰さないから。

葵 帰さない〜〜 なんかやつぱり愛の告白されてるみたいない気分になってきた。

風花 違うって！

葵 えー。

風花 まっ、こんなもんかな。どう、簡単でしょ？

葵 いや、最後のは難題でしょ。

風花 え、そんなに。

葵 だってあんた、ニヤついてはいるけど、それは笑ううちに入らないんですよ。

風花 入らないね、私は心の底から笑いたい。

葵 絶対に笑わない気がする・・・。

風花 笑いにもいろいろあるからね。うん。よろしく。

葵 これっぽっちも出来る気がしない。

風花 じゃ、頑張ってくださいあい。

葵 軽いなー。人ごとだと思っつて。

風花 あ、今日は初日だから、この条件は気にしなくていいよ。

葵 そりゃどーも・・・。

風花 だから今日は解散！帰っていいよ。お疲れ様〜

葵 なにその部活みたいなの。

風花 部活！いいね、それ。友だち活動部、友活部とかどーよ？

葵 友活部。部長は？

風花 もちろん私。君はただの部員。

葵 えー。

風花 うちは、上下関係厳しいよ。

葵 はい。部長。

風花 よし。

葵 じゃあ帰ります。塾もあるし。

風花 命日になりそうな日に、塾行く気だったの？

葵 サボりとか嫌いだし。どうしても今日死にたいわけじゃなかったし。

風花 はあく(怒)。

葵 ただちよつと、気持ちを表に出すきっかけが欲しかったっていうか。

風花 私はそこにたまたま立ち会ってしまった、と。ああ(ため息)。

葵 でも、生きてる意味がないって感じてるのは本当。

風花 熱くなって損したわ。

葵 損はさせてないと思う。あ、絵の邪魔はしたかも。ごめん。じゃあ。

背を向けて帰ろうとする葵。

風花 ねえ。

葵 え？

風花 名前は？ 私、橘風花。

葵 わたしは、葵。土田、葵。

風花 また明日、葵。

葵 また明日。えつと、

風花 ふうかでいいよ。

葵 風花・部長。

風花、手をヒラヒラとふる。

葵、少し照れ臭そうにしながら屋上を出る。

風花 葵、か。

風花、空を見上げる。イヤホン装着。キャンバスに向かう。

音楽 F I

溶暗。

溶明。

音楽 F O

キャンバスに向かい、絵を描いている風花。

恐る恐る入ってくる葵。

風花 おそーい！

葵 すみません！ 部長！ 掃除当番で。

風花 あ、真面目なんだった。ま、許そう。

葵 ほっ。

風花 気をつけ！これから、今日の活動を始めます！礼！

葵 よろしくおねがいしまーす！

風花、絵を描きはじめる。葵、課題を広げて始める。

葵 部長、ちよつといいでしょうか。

風花 なに？（描いてるので上の空。一見不機嫌そう。）

葵 いえ、何でもありません。

風花 なに。言いたいことあれば言いなよ。許可する。

葵 はい。友達活動部の矛盾に気づきました。

風花 なに？

葵 絵描いてるとき、邪魔しちゃいけないですよ？

風花 うん。

葵 これじゃあ、いつまでたっても話、聞いてもらえそうにないんですけど。

風花 ああ。じゃ、どうぞ。（描きながら）

葵 え、今描いてるのに？

風花 私が許可したら、OK。もちろん、私から話しかけるのはセーフです。

葵 都合いいなあ。

風花 部長の権限。

葵 ぶー。

風花 話すの話さないの、どっち？

葵 話します！

風花 よろしい。

葵 何から話そうかな。

風花 わたしなんて生きてる意味ないってのから聞こうか。

葵 ああ、いきなり本題だ。

風花 そこから聞かないとまた死ぬ死ぬ言い出すでしょ。

葵 うーん。

風花 で、なに？いじめ？

葵 ちよつと違う、かも。

風花 じゃ、どんな？

葵 完全に、ぼっち。

風花 なんだそれ。

葵 あだ名、付けられた。

風花 どんな？

葵 コバンザメ女。

風花 コバンザメ？

葵 うん、コバンザメ。

風花 あの、でっかい鮫にくっついて生きてるちっちゃい鮫？

葵 うん。

風花 それ、悪口なの？

葵 悪口でしょ。

風花 コバンザメ嫌いなの？

葵 え、好きなの？

風花 別に好きじゃないけど、嫌いでもないよ。

葵 嫌じゃない？コバンザメとか言われるの。

風花 別に？

葵 ずっと付きまよって、迷惑なやつって意味なんだよ。

風花 つきまよってたの？

葵 仲良しなだけだよ。いつも一緒にの友達がいた。何するにもどこに行くにも一緒。

風花 だったらぴったりのあだ名じゃん。

葵 はあ？

風花 あ、でも、コバンザメは宿主の鮫には迷惑掛けないね。

葵 私は迷惑なんてかけてないよ！だってあの子のために私、色々尽くしてきたんだよ？

風花 例えば？

葵 ノートとか課題とか全部見せてあげたし、あの子のために購買にパンを買いに行ったりもしたし、あの子がやりたくないっていう仕事も全部私がやったし、それから・・・

風花 あーあーもういいわかった。んでその行動、彼女の的にはどうだったの？

葵 どう、って？

風花 迷惑だったの？

葵 迷惑なはずないってば！ずっと一緒だったからわかるもん。

風花 ずっとって？

葵 幼稚園からずっと。仲良しのふたり。なのに、突然裏切った。

風花 まって、唐突でわかんない。それで、なんでコバンザメが裏切られたことになるの？

葵 「コバンザメ女」ってあだ名付けたのその子だった。それからみんなに変な目で見られるようになった、ぼっち。

風花 ・・えーつまり、今まで尽くしてきた才鮫に、悪口ばら撒かれて一人にされた、と。

葵 そうだよ！ねえ、部長はどう思う？

風花 どう、って？

葵 今の話聞いて、私が悪いと思う？ 悪くないよね？

風花 うーん。

葵 なにそれ！？部長は私の味方じゃなかったの？！

風花 誰も味方だなんて言っていないでしょうが。

葵 話聞くなっていったじゃん。

風花 なんでもイエスが話聞くなってことじゃないよ。

葵 でも、

風花 でも、友達の悪口流すとかありえない。

葵 だよ。

風花 そうそう、つまりそういうことなんだよ。

葵 え？そういうことって、なに？

風花 つまりあつちは葵のこと大切な友達って思ってたわけだ。

葵 何言ってるの？あの子はずっと一緒にいたんだよ？なのに友達じゃないなんて。

風花 じゃ、友達って、ずっと一緒にいるだけの人？

葵 いやそれは、

風花 コバンザメとか言われても？

葵 いや、

風花 ずっとなんて無理だよ。そういうのうっとーしいって思う人もいるよ。

葵 な・・なによ！あんたなんか何かわかるってゆーのよ！

風花 私は一般論を述べただけ。

葵 あの子は違うかもしれない！

風花 でも実際、嫌がられたから裏切られたんじゃない。

葵 そう、だけど。

風花 ほんとはさ、思い当たるところあるんじゃない。自分にも原因があるって。

葵 そんなの、知らない。

風花 いつまで意地張ってるの。

葵、風花から離れて柵に手をかけ項垂れる。

葵 そっか。やっぱ悪いのは私ってこと。

風花 どっちが、ってことないんじゃない。なーんだ、それで、私なんて生きてる意味ない、ですか。

葵 おかしい？

風花 それくらいのこと、生きる意味見失ってどうすんのよ。地上からホモサピエンスが消えるわ。

葵 ひとりで平気なホモサピエンスはいいよ。寂しいと死んじゃうのもいると思う。

風花 寂しいんだ。

葵 寂しい。

風花 ひとりでも平気になればいいんだよ。

葵 部長は平気なの？ひとり。

風花 平気。

葵 強いんだね。

風花 まーね。

葵 ふーーーーーーっ（ため息）。

風花 ・・今すぐに平気にはなれないだろうけど、別にさ、ひとりでもいいんだよ、私たち。

葵 ・・うん。

少しの沈黙

風花 ところで貢物は？

葵 え、ああ、はい。

葵、お菓子を取り出し風花に渡す。

風花 お、優秀優秀、いいじゃない。

葵 やっぱどう考えてもカツアゲだ。

風花 なんか言った？

葵 いえ、何も。

葵、お菓子を食べている風花をじっと見つめる。

風花 落ち着いた？

葵 うん。落ち着いたらお腹空いた。

風花 なにそれ。

葵 そういうタイプの人間なんです

葵、お弁当を取り出す。

風花 今からお弁当？放課後だよ。

葵 気分じゃなかったから。

風花 ふーん。

葵 あ、食べる？

風花 いいよ。

葵 じゃ、いただきます。

風花 (弁当のぞき込んで) すつご。自分で作んの？

葵 んなわけないじゃん、母さん。

風花 へえ、ちゃんとお弁当とか作ってもらえるんだ。

葵 あたりまえじゃないですか。

風花 へえ。一人ぼっちじゃないじゃん。(葵は聞いてない)

葵 部長はお昼どうしてるんですか。

風花 食べない。

葵 え？、食べないの！？

風花 うん。

葵 死なない？

風花 死ぬわけないじゃん。

葵 私だったら死んじやう。

風花 死にたいんじゃない？

葵 ……撤回します。

風花、爆笑。

葵 あ！

風花、まだ気づかない。笑ってる。

葵 クリア！

風花 え、なに？

葵 最難関の条件、本日の分、クリアしました！

風花 ！（しまった）

葵ガッツポーズ。

風花 随分嬉しそうだね。

葵 そりゃ嬉しいよ！

風花 そんなに早く帰りたい？

葵 じゃなくてさ、笑顔を向けられるのって、純粹に嬉しい。

風花 ふうん、そんなもんかね。

葵 そんなもんです！

風花 ・・これより創作の時間！ 邪魔は認めん！

葵 了解！

音楽 F I

絵を描く風花。食べたり課題したりのカイ。

静かながらも、その姿は仲の良い友達同士。

音楽 F O

風花にサス

風花 ねえ、そんなに一人が怖いのか？ いいかげん鬱陶しいんだけど。たまには一人にでもなってみれば。

・・なに、その顔。

溶暗

溶明

葵、機嫌悪そうに入ってくる。無言でどかっと座る。

風花 ・・ごきげんよう。

葵 良くない！

風花 見りゃわかるわ。

葵 聞いてよ！

風花 はいはい聞きます。

葵 みて、これ！

と、手にはラーメン。

風花 ラーメン。

葵 そう！ どう思う？！

風花 おいしそう。

葵 違う！ちがーう！

風花 え、これラーメンじゃないの？

葵 ラーメンです。どう見てもラーメンでしょ。

風花 うん。

葵 これだよ。これが今日の昼ごはん！

風花 上等じゃん。

葵 どうしろって言うの、お湯もないのに！ このまま食べろっての！？

風花 食べられるらしいよ。

葵 え、ほんとに？

風花 味は保証しないけど。

葵 あー・・・(戦意喪失)。

風花 どうしたの、これ。

葵 母さんとけんかした。

風花 めずらし。

葵 珍しくないよ。私のことなんて全然わかってないから、けんかばっかだよ。

風花 で、お弁当作ってもらえなかったんだ。

葵 ひどくない？

風花 けんかの内容によるね。なにやったの。

葵 電話に出なかった。

風花 お母さんからの？

葵 うん。

風花 え、それだけ？

葵 そう。たったそれだけのことだよ？ このごろしつこいんだ。しょーもない用事で電話してくるから、無視してた。

風花 何回も出なかった、と。

葵 うん。でも、あんなにねちねち言うことないのに。

風花 ねちねちって？

葵 まず、成績のことでしょ。

風花 ああ、定番。

葵 で、同級生の名前出してきてさ、「〇〇さんちのくちゃんは勉強もできるし、明るくてあいさつもよくするし、ピアノも上手で部活もがんばってるし」ってねちねちねちねち。

風花 それはだめなパターンのやつだ。

葵 でしょ！ で、このごろなんで帰りが遅いんだってうるさいから、言っっちゃったのよ、「あんたに関係ないでしょ」って！

風花 うーん。

葵 しつこく電話してきたのも私の居所を確かめようとしたらしい。

風花 当然だろうね。

葵 そのまま口利かないで寝ちゃって、ちよつと寝坊して、朝起きたら、テーブルに朝ごはん、これ、置いてあった。

風花 昼はこれ食べとけ、と。

葵 そう！ ひどくない？ 女子高生のお弁当に、ラーメンだよ。あだ名が「ラーメン」になったらどうしてくれるの！

風花 そりやおもしろい。

葵 ああ!?

風花 失礼。

葵 どうせ母さんは私のことなんてどうでもいいんだ。

風花 飛躍するなあ。

葵 だってそうでしょ。子供のこと大事だったら、人と比べたりしないし、

風花 でも、朝ごはんはあったんだ。

葵 いつも同じだけどね。

風花 贅沢。

葵 義務でやってるのよ。私が何を悩んでるかとかぜんぜん興味なくてさ。母さんの思ったとおりの子じやないからいらいらしてるのよ。

風花 それってさあ、

葵 なに?

風花 ただ心配だからじゃない。

葵 え?

風花 どうでも良かったら何も言わないよ。

葵 私の気持ち、尊重してくれてもいいじゃん。

風花 尊重って、何も言わないでほったらかしにすることじゃないでしょ。

葵 そのほうがうれしい。ほっといてほしい。

風花 本当に? ほったらかしっていうのは、朝ごはんも作らないし、成績がどうだとも言わないし、帰りが遅くても理由も聞かないことだよ。そうしてほしい?

葵 ・・自由、な気がする。

風花 本当に?

葵 ・・ちよつと寂しい、かも。

風花 愛されてるね、葵。

葵 そんなこと、

風花 あるよ。「葵が困ってないかな、楽しくやってるかな、お腹すかせてないかな」って、いつも気にかけてる。

葵 親として当然じゃない？

風花 まあね。でも、親としての務めをちゃんと果たそうってのも、愛あってこそじゃない。

葵 愛ねー。よく照れずに言えるな、風花。

風花 いや、照れるでしょ。お母さんも照れるから、ストレートには出さないんじゃない？

葵 うーん。

風花 一件落着？

葵 なんか悔しい。じゃあさ、コバンザメの話、母さんがちゃんと聞いてくれなかったのは？

風花 親が必ずいいアドバイスできるとは限らない。いい言葉が見つからなかっただけかも。

葵 じゃあ、ほかの子と比べるのは？

風花 ついヒートアップしちゃうんじゃない？

葵 だめじゃん、それ。

風花 それも、愛ゆえ、ね。

葵 都合いいー。

風花 ま、ともかく、毎日お弁当作って、葵のこと心配してくれてて、腹立つくらい真剣だったこと。

葵 ・あーあ。

風花 落ち着いたらお腹すいた、でしょ。

葵 うん。

風花 食べれば？

葵 これ？

風花 試してみる価値はある。

葵 えーちよつと怖くない？

風花 じゃあ私も一緒に食べる。

葵 あ！ お菓子忘れた。

風花 これで許してやろう。

葵 え、食べるの？

風花 うん。試してみる。

二人でラーメンをそのまま食べる。

風花 ……。食べれなくはない。

葵 うん、でも、

二人 まずーい！

葵、大笑いしている。

それを見る風花、微笑。

葵 風花はさ、親に勉強のこと何か言われない？

風花 言われない。うちはそういうの全部、「本人の問題」で片付くから。

葵 いいなあー自由そう。

風花 自由とか放任？

葵 なーんにも言われないの？

風花 まあね。

葵 将来はこうしなさいとか？

風花 ないね。

葵 友達とどう、とか？

風花 ないない。

葵 じゃあお母さん、風花のこと何も知れないじゃん。

風花 そうだね。

葵 風花がお昼食べないのは？ お母さん知ってる？

風花 どうかなあ。

葵 お母さんお弁当作らないんだっけ。

風花 お昼代はもらってる。

葵 でも食べないの。

風花 いらない。

葵 お金どうしてるの。

風花 画材つけてっこうかかるの、知らないでしょ。

葵 別にお金もらえばいいじゃん。

風花 今ので足りてるから。

葵、考え込んで、

葵 それって、

風花 なに？

葵 寂しくない？

風花 べつに。

葵 ふーん。

風花 だからなに。

葵 私は心配だよ。風花のこと。

風花 なに言ってるの。

葵 だって、

風花 大丈夫。

葵 ほんとに？

風花 大丈夫だって。ね？

葵 ・・・うん。

風花 はい、もうおしまい！さ、描くよ。

風花、イヤホンつけて描き始める。音楽。

葵、気になるが黙って課題をする。

風花にサス

風花 母さん。え・・・いや、なんでもない、大丈夫。・・うん、行ってらっしゃい。

溶暗

溶明

葵 いただきます。

風花 は？また放課後に弁当？ ここのところ毎日じゃない。

葵 ラーメンじゃないけどね。

風花 お母さんと上手くやってるんだ

葵 上手くかどうかは知らないけど。お弁当はこのとおり。

風花 で、なんで昼休みに食べないの。

葵 (食べながら) 風花のおかげでね、教室でひとりは平気になってきたんだけど、さすがにあのなかでは

風花 つち弁当は厳しいわけよ。で、昼休みは、ソッコーで図書室に行くわけ。飲食禁止じゃん？

葵 でもね、収穫もあった。

風花 何？

葵 じゃん！ (と、本を取り出す)

風花 詩集？

葵 そう！ なんかびびっと来たのよね。

風花 で？

葵 風花はここで絵を描いてる。

風花 葵は課題をやっている。

葵 そこ！ 部活中に課題つてのがどうも引つかかってさ。家でやるべきじゃない？ 気持ち悪い。

風花 出たわ、無駄に真面目な土田さんが。

葵 でね、詩、書くことにした。

風花 詩？ ここで？

葵 そう。総合芸術部、というか、自己表現部？ よくない？

風花 話はどうなの？

葵 ううん。風花と同じステージに立ちたいと思って。創作しながら喋る。そしたら対等。

風花 芸術家気取るわけね。

葵 コバンザメはさ、完全に依存してるじゃない？ オオ鮫に。

風花 おお、自分でコバンザメ名乗るまでに強くなったか。

葵 だから、またコバンザメになるのはやめるの。風花と対等の友達を目指す！ オオ鮫になる！

風花 そうか。で、詩人になると。

葵 うん。絵も考えたけど、絵心ないし、私。でも詩ならいけそう。

風花 そんな簡単ですかね。

葵 それがね、心の叫びを綴れば、誰でも詩人なんだって！（と詩集を誇示）

風花 ほんとかなく。

葵 ほんとだよ。風花にも本物の詩ってもんを見せてあげる。

風花 見せてくれるんだ。

葵 もちろん。だから、風花もみせてよ、絵。

風花 はい。（と、キャンバスの前を譲ろうとする）

葵 それは毎日見てる。そっち。

風花 スケッチブック？

葵 そう。

風花 これはダメ。

葵 えーなんで。

風花 スケッチは人に見せるもんじゃないの。

葵 なんで。

風花 途中なんだよ。これは下書きだから

葵 いいよ、途中でも。

風花 詩人の頭んなか全部見せるようなもんよ。嫌でしょ。

葵 いいじゃん友達でしょ。

風花 その友達が嫌と言ったら嫌なのよ。

葵 けち。

風花 気前がいいとかの問題じゃない。

葵 ま、でもいつか。

風花 お、意外とすんなり引き下がった。

葵 友達、なんでしょ。

風花 ん？

葵 部活のつきあいじゃなくて、私たち友達なんだ。

風花 なにか？

葵 うれしいな。友達が出来たんだ！

風花、ふっと笑う。

葵 あ！ 笑った！よし、本日の分、早くもクリア！

風花 はいはい。じゃ、友達くん、そろそろ創作に集中させてくれるかな。

葵 おっけー。

風花 よし。

音楽 F I

青空のなか絵を描いている風花。葵、弁当食べ終わる。

風花の周りをうろうろと動き回る葵。

チラチラと風花を見たり、何かメモしたりの葵。

何を思い立ったか風花の身体を。ぺた。ぺたと触り出す葵。

音楽 F O

風花 やかましいんだけど。

葵 へっ、いやいやいや、邪魔なんてしてませんよ。ほんとほんと、だって話しかけてないもん。ほら。

風花 その行動が意味不明で邪魔だったの。

葵 活動に没頭してます。

風花 は？私は絵を描いてるのだが。

葵 わたしはその風花を題材に詩を書こうとしている。題材の観察。

風花 はあ、そう。で、なんで私の身体ベタベタ触るの。

葵 改めて観察してて思ったんだけどさ、なんか風花って、この世にいないような空気感あるなと思ってた。

風花 え？

葵 いやほら、食べないし、ごはん。

風花 食べてるじゃん、ほら。(菓子をほおぼる)

葵 お菓子だけ。

風花 水も飲むよ。

葵 いつ屋上に来てもいるしさ。

風花 いるけど。

葵 この前、筆箱忘れてお昼に取りに来たときもいたし。本当に一日いるんだね。

風花 あー。ま、凡人の感覚じゃあ理解できないかもね。

葵 旧校舎、屋上の地縛霊、とか？

風花 ちゃんとこの世にいるよ、ほら。

葵 ・・風花さあ、なんでここで描くの？

風花 誰にも邪魔されないから、って始めに言ったよ。

葵 そうだけど。

風花 ちよつと待った！

葵 え。

風花 その質問は許可できません。

葵 えー、毎日私の話ばっかじゃん。

風花 友達活動部の初期設定だから。そもそもは葵の話聞くためで、友達に昇格して、自己表現部になったのでは。友達でしよ。

風花 ・・友達。

葵 もっと風花のこと知りたいよ。友達だから。

風花 今日はもう答えたから！

葵 何も答えてないじゃん。

風花 私は地縛霊じゃないって答えたよ。ね、我が友よ！

葵 えー。ま、いっか。

風花 あ、もいつこちようだい、我が心の友々。

お菓子を食べる風花。しよугがないなあと笑う葵。

風花にサス

風花 できた。見る？ほら。そんなに褒めても何も出ないよ。わかった、照れるからもうやめて。そんなに私の描く絵が好き？ え、これ、もらっていいの。ありがと。

溶暗

溶明

絵を描く風花、ノートに詩らしきものを書き付ける葵。

葵 できた！

風花 おー。

葵 いきます。

風花 よし、こい。

葵

絵が上手い きみ

やさしい きみ

強くてカッコイイ きみ

何でもできる きみ

きみといると楽しい

きみと食べるお菓子は三ツ星級

きみは私の宝物

そんなきみは 大好きなわたしの友達

風花、爆笑。

葵

ちよっとー、笑いすぎ。そりやまだまだだけどき。

風花

ごめんごめん。そうじゃないって。

葵

え？

風花

あんまりストレートで、まいったなああって。

葵

え、よかったの？

風花

うん。ズキューンときた。

葵

ウソっぽい。褒められてる気がしない。

風花

褒めてるよ。

葵

ま、今日の笑い取ったし。いっか。

風花

立ち直り早いな。

葵

部長仕込みですから。

風花

部活の成果だね。メンタル強くなったし、詩の作品は出来るし。

葵

あー、なんかほっとしたらおなかすいた。

風花 はい恒例、放課後、屋上弁当。

葵 今日は風花のものもあるよ。(と弁当2つ)

風花 うそ。

葵 お菓子しか食べない？

風花 いや、いただきます。

葵 どうぞ。

風花 うわ、今日もすごいわ。

葵 気合い入ってるでしょ。

風花 お母さん料理うまいね。

葵 うん。

風花 私が昼ご飯食べないこと話した？

葵 毎日なんで帰りが遅いのかってしつこいから、風花のこと話した。ごめん

風花 別に謝らなくていいけど。わざわざ放課後までもつお弁当を2つもって、大変なのに。

葵 暇なんじゃない。

風花 いいお母さん。

葵 どうかな。

風花 いいな。

葵 へ？

風花 ・・うちは、私のこと何も知らないよ。知ろうともしない。

自ら語りだした風花にちよつと驚く葵。

葵 毎日ここにいることは？

風花 さあ。

葵　なんで聞かれないの？

風花　言ったじゃん、うちは基本なんでも「本人の問題」なの。

葵　でも、心配くらいするもんじゃ・

風花　そういう親もいる。しょうがない。

葵　でも・

風花　慣れてる。昔からそうだし。

葵　そんな、

風花　私に興味ないし、あの人たち。あーあ、ほんと生まれ落ちるとこ間違えたなあ。次は葵のお母さんのとこにでも生まれよーっと。あ、でもそしたら私、葵の妹になるのかな？

葵、風花にしがみつく。心臓の音でも聞くかのよう。

風花　なに？

葵　風花がちゃんといるか確かめた。

風花　いるよ〜。

葵　生きてる？

風花　生きてる生きてる。ほら。

葵　食べよう。生きるには食べなきゃ。

風花　「死んでやる」って言ってた人にそんなこと言われるとはね。

葵　ほーら！風花、手を合わせて！

風花　そんな子供じゃないんだから。

葵　早く！

風花、しゅしゅ手を合わせる。

葵 よし！じゃあせーの、いただきます！
風花 いただきます。

ばくばく食べ始める二人。

風花 おいしい。

葵 「今日も元気だ、ご飯がうまい」。

風花 なにそれ。

葵 なんかの詩だっけ？

風花 そういうのは詩って言わない。

葵 えー。

葵、風花のイヤホンを見て、

葵 ね、それ、いつも何聞いてんの？

風花 聞く？

葵 うん。

イヤホン半分こ。何か聞こえてるらしい。

葵 ふーん。こんなの聞いてたのか。

風花 ラジオ。どう？

葵 けっこう好き。

風花 この、ライブな感じがいいでしょ。

葵 うん。でもこれ、絵の邪魔にならないの？うるさいのダメなんでしょ。

風花 邪魔じゃないよ。時々すごくいい曲にも出会えるし。

葵 へえ。空に流れる見えない音をキャッチしてるんだね！

風花 正確には、音じゃなくて電波ね。

葵 どっちでもいいじゃん。

風花 適当だな。

葵 どこかで知らない誰かがしゃべってる、私の知らない歌を世界に流してる。

風花 ー、さすが詩人。

葵 詩人の心をくすぐる！

風花 絵描きの心もくすぐる！

顔を見合わせて二人でクスクス笑う。

葵 あ、この曲も好き。

風花 食べるよ。

葵 うん。

音楽F I

食べにくいと言いつつ、ラジオを聴きながら弁当を食べる。

溶暗

溶明

音楽 F O

いつもの活動中のふたり。いらつく風花。

風花 んー、ちがう。

葵 どれどれ。

風花 ダメだあー。

葵 なんて、きれいじゃん。

風花 きれいな絵を目指してるんじゃない。

葵 いやいや、すごいよ、風花は。

風花 どころが。

葵 この何もない殺風景な屋上で、こんなにきれいな絵が描けるなんて。

風花 殺風景？ 葵はさ、この屋上には何も無いって思ってるの。

葵 えっ、だってここ、なんもない。パオンの屋上は木も生えててベンチもあるけど。汚い床と錆びたフ

ェンスだけじゃん。

風花 ぱつと見そうかもね。でもさ、ほら（上を指さす）。

葵 え？なに？

風花 上見てよ。

葵 ？（上見る）上。

風花 ここには空がある。

葵 どこにだってあるじゃん。

風花 わかんないかなあ。ここからは、空しか見えない。

葵 え、グラウンドも見えるよ。あと校門のイチョウの木。ちよつと乗り出したら、下は駐車場。

風花 ・・芸術的思考力に欠ける。

葵 反省します。部長。

風花 芸術的視点で、空を眺めよう。

風花、大の字に寝そべる。

葵、まねして寝転ぶ。ちよつと抵抗あり。

風花 何色？

葵 青。空色。

風花 よく見て答える。

葵、黙って空を見る。

葵 いろんな色がある。

風花 そう。季節によって変わるし、もちろん天気も影響する。一日の中でも、刻々と変わるよ。
ほー。

風花 杏色の空を紺色が飲み込む時間。澄んだ水に桜の花びらが浮かぶような空。真っ黒なペンキにダイヤモンドを散りばめた夜。身も心も溶かすようなどこまでもどこまでも深い青。

葵 素敵だね。

風花 素敵なんだよ。そんな素敵な空と、ここはこんなにも近いんだ。
近い。

風花 空には、音楽も流れてるし、人の声も飛んでる。

葵 飛んでるのはラジオの電波。

風花 自分が言ってたんでしょ。

葵 そうだった。

風花 これでもここにはなにも無いって言う？

葵 撤回します。
風花 よろしい。

葵、起き上がってキャンバスの前に。

葵 風花はこの空が大好きだから空の絵を描くんだね。

風花 ようやくわかったか。

葵 この空の中にいる女の子、風花の友達？

風花 え、わかった？ヒトがいるって。

葵 ぱつと見ると雲かと思うけど、やっぱこれ女の子だよね。

風花 うん。

葵 モデルいるの？

風花 いる、かな。全くの想像では描かない。

葵 なんか・・空を飛ぶ女の子。

風花 そう見える？

葵 飛んでる。いや、走ってる、かな。あつてる？

風花 絵は見る人のイメージが半分だから。他には？

葵 笑ってる。無邪気に笑って、空を駆け回る女の子。・・でも、
風花 でも？

葵 ちよつとだけ、怖い・・かも。

風花 ・・・。

葵 ああ、ごめん。率直な感想。

風花 ぜんぜん。絵は見る人のイメージが大事だって。
葵 うん。

沈黙

風花 初めは真っ赤な空にしようとしたんだ。

葵 ふうん。

風花 でも青い空に変えたの。

葵 なんで。

風花 青が似合うから。

葵 ・ ・ ・ どういう意味？

風花 そのままの意味。

葵 そのまま？

風花、答えない。

葵 どういうこと。

風花 どうしても知りたい？

葵 知りたい。

風花 ・ ・ ・ 赤い空は嫌い。

葵 なんで？真っ赤な空も綺麗でいいじゃん。

風花 夕日が青い空を溶かして、夜に連れてつちやう。

葵 風花 ・ ・ ・ 芸術家だ！

風花 ？は？

葵 風花って、ポエミーなところあるよね。嫉妬しちゃうなあ、詩人としては。
風花 ポエミーって、なによそれ。

葵 詩人ぼい、てこと？

風花 ポエティック、かな。

葵 え、なにそれ、風花細かい！ いや、風花頭いい！

風花 はあ、・・・葵といるとバカになりそう。

葵 あ！夕焼け空の詩、思いついた！さんきゅー、風花！

葵、ノートに詩を書き始める。

風花 …まあいけどさ。

風花、スケッチブックに絵を描こうとする。

葵、鼻歌。

風花、手を止めて葵を見る。

葵 明日は雨かなあ。

風花 独り言？

葵 ちがうよ。風花に話してるんだよ。

風花 絵描いてるときは邪魔しない。

葵 えーいまさら。

風花 部活中だから。

葵 さっきの話の延長だからセーフセーフ。

風花 ……。

葵 はい、いいですよ。勝手にしゃべってますから。

葵、スマホで天気予報見る。

葵 明後日から雨だつてさあ。あーあ、雨つて、ほんとに嫌だ。ジメジメして、なんか頭も痛くなるし。

風花 ・私もあんま好きじゃない。

葵 だよねー！はあ、憂鬱だなあ！（と、元気いっぱい）。

ふうか クスリと笑う。

風花 全然憂鬱そうじゃない。

葵 えーそう？

風花 ほんと、葵は・・・

葵 え、なに？

風花 葵だね。

葵 ー？

風花 ほんと、好き。

葵 え？

風花 一番好き。

葵 わたしのこと？

風花 ちがうって。

葵 ちえっ。

風花 この屋上。いちばん空と近くて、いちばん大切な場所。

葵 なんだー、私のことかと思った。

風花 うぬぼれない。・・・でも、いちばん嫌いな場所。

葵 なにそれ。矛盾。

風花 ・・矛盾だらけよね。

葵 風花？

風花 ・・今日はもう解散。葵、今日塾じゃない？

葵 そうだった。またあした、風花！

風花 じゃあね、葵。

葵、去る。

風花、キャンバスをしばらく見つめた後、スケッチブックを開き、見つめる。
空は夕焼けに。風花、空を見上げる。

風花 似合わないよ。

風花、空を見上げたまま、スケッチブックを抱きしめる。

夕焼け空に風花のシルエット。

風花にサス

風花 まだ間に合うかな。あやまらなくちや。許してくれるかな。・・空、赤い。

溶暗

溶明

少し夕焼けがかった空。

葵が入ってくる。

葵
風花　あれ、いない。

キャンバスの絵を見ようと近づく。
すぐそばにスケッチブック。葵、ためらいがちに手を伸ばす。

葵
ちよっとだけ。

スケッチブックの中を見る。

葵
へえ。こんなのも描くんだ。

風花、入ってきて

風花
やめてよ！

風花、すごい勢いでスケッチブックを奪い取る。

葵
やっぱ上手いね、風花。その子、友達？

風花
関係ない。見せないっていったでしょ。

葵
あー、ごめん。

葵、悪びれる様子もなく、鼻歌交じりにお菓子を取り出す。

葵 はい。(とお菓子を手渡す)

葵、お菓子を口にす。ふうかは食べない。

風花 ご機嫌だね。

葵 そうなの！聞いてよ風花。

風花 そのへたくそな鼻歌？

葵 ちがうよ。ぼっち弁当、卒業できるかも。

風花 え。

葵 一緒にご飯食べようって言うてくれてさ。

風花 だれ？

葵 同じクラスの子。

風花 ふうん。

葵 いやあ、ほんとくじけず学校行ってよかった！ 風花のおかげで、ぼっちは平気になったけど、

友達が出来るのが嫌なわけじゃないからさー、

風花 どういうつもりかな、その子。

葵 ん？

風花 知らないのかな、葵の話。

葵 私の話…？

風花 ほら、コバンザメ。同じクラスなら知ってるはずよね。

葵 どうか。知ってたとしても、気にしないんじゃないかな。

風花 クラスみんなに無視されてるっていつてたじゃん。

葵 みんな、じゃなくなっただよ。

風花 へえ。一度お昼食べただけで、ずいぶん信用してるんだね。

葵 ・ ・ 風花機嫌悪い。

風花 そう？ 思ったことを率直に口にしたらただだよ。

葵 スケッチブック勝手に見たの、怒ってるの？

風花 ・ ・ いや、さ。なーんか、私が相手してやってる意味あるのかなーって。

葵 なにそれ。私に友達出来るのが気に入らないの？

風花 別に。

葵 別について顔じゃないじゃん。

風花 心配してあげてるんだよ。その子がまた葵のことコバンザメとか言い出さなきゃいいなって。

葵 ・ ・ ・

風花 ま、私の勝手な心配だから。気にしないで。

葵 ほんと。勝手に変な心配しないでよ。

風花 友達として当然の心配と思うけど。

葵 ・ ・ ・ 大丈夫だよ！ あの子なら、もしその話聞いても、きっと仲良くしてくれると思うし。

風花 そっか。 ・ ・ そうだと、いいね。

葵 やっぱり、なんかおかしい。今日の風花。

風花 そう？ いつも通りだよ。

葵 いつもと違う。

風花 どこが。いつもの私だよ。屋上で、空見て絵かいてる、一人ぼっちの風花だよ。

葵 一人じゃないよ。私がいる。

風花 ひとりだよ。葵はほかに居場所見つけたから。

葵 いじけてんの？

風花 次の居場所が見つかるまでの、つながりになってあげたんだから、感謝してよね。

葵 風花もさ、授業出た方がいいよ。

風花 余計なお世話。

葵 だって、このままだと学校にも・
風花 関係ないでしょ！

沈黙

葵 ・・今日はもう帰ろう。

風花 帰れば。

葵 雨も降りそうだし、帰ろう。

風花 ほつといて。

葵 ね、

風花 きみにもうここは必要ないでしょ。帰れば。

葵 風花。

風花 トモダチごっこはもうおしまい。

葵 トモダチごっこ。

風花 邪魔しないでくれる。

葵に背を向ける風花。

ポツポツと雨の音。見上げる葵。

激しくなる雨の音。

葵、傘を開き、風花に無理やり持たせて無言で立ち去る。

風花の手から力なく傘が落ちる。

無言でキャンバスを見つめるふうか。

ゆつくりとキャンバスに手を伸ばし、絵を見る。スケッチブックを抱えうずくまる。

雨の音 F O

風花にサス

風花

どうして、どうして、そんな……。私の所為だ、私があんなこと、あんなこと言ったから……。私が、約束さえ守ってれば。……。ごめん。ごめん……。ごめんアオイ。

溶暗

溶明

黒い影が夕焼けの中空を見つめている。

柵に手をかけ、今にも飛び降りてしまいそうに前のめりになっている

葵

風花！

風花、ゆっくりと葵を振り返る。

風花

ああ、葵。

葵

なにしてるの、危ないよ。

風花

危ないから葵は来ないで。

葵、近づこうとすると

風花

だめ！……来ないで。

葵

風花？

風花 もうおしまいなの。

葵 なにが。

風花 私がここにいる理由が無くなったの。

葵 理由？

風花 全部埋まっちゃった。・・・スケッチブック。

葵 どういうこと？

葵、床に落ちていたスケッチブックを拾い上げばらばらとめくり、ふと手を止める。

風花 ・・・（葵を見る）それ、アオイ。

葵 私？

風花 違う。中浜蒼。びっくりしたよ、同じ名前なんでもん。

葵 誰？

風花 わたしの、幼馴染で親友。だった。

葵 だった？

風花 死んだの。

なにも言えない葵。

風花 もう1年になるかな。車にはねられて。

葵 事故？

風花 事故・・・だったのかな。

葵 どういうこと？

風花 アオイはね、いじめにあってたんだ。

葵 え？

風花 ひどいなんてもんじゃない。あれでよく学校来てたよ。

葵 そう。

風花 毎日ここで、お菓子を食べながら他愛もない話をする。二人の約束だった。

葵 風花が味方で心強かったんじゃない。

風花 味方？（笑う）

葵 なに？

風花 私は、ただの卑怯者。

葵 は？

風花 教室ではアオイと目も合わせなかった。

葵 親友、ってさっき・・

風花 自称親友？（自嘲）教室の傍観者。屋上の偽善者。

葵 ふざけないでよ。

風花 ここでは安心して話せる幼馴染の親友。でも、教室では他人。

葵 なんて。

風花 怖かった。

葵 なにが。

風花 自分がいじめられるのが。アオイと仲がいいなんて誰にも知られなくなかった。

葵 風花がそんなこと（思うはずない）。

風花 そういうやつなんだよ私は。（自分だけがかわいいから。）

葵 ・・・

風花 でもアオイにも嫌われたくない。ずるいでしょ。

葵 ずるいなんて。きっとその子は風花に救われたよ。私はみたいに、ここでだけは、

風花 違う！私はそんないやつじゃない。

葵
風花・・・。

言葉に詰まる葵。風花も何も言わない。

葵 風花は、私を助けてくれた。生きなくちゃって教えてくれたじゃん。

風花 許されたかっただけ。

葵 なにを？

風花 生きることに。ここに居ること。

葵 なんで生きるのに許しがいるの。

風花 アオイが死んだのに。私が生きてちゃいけない。

葵 なんでよ。誰が許さないの。

風花 アオイはきつと許さないよ。

葵 だからなんで。

風花 アオイが死んだのはわたしのせいだから。

葵 え。

風花 あの日、私、アオイを傷つけた。

葵 ・・？

風花 ひどいこと言った。

葵 なにを。

風花 「たまにはひとりになってみれば」って。

葵 ひとり・・・。

風花 うつとうしいって思っちゃったんだ、私といるとき安心しきってるアオイの顔見てたら。アオイは絶対

対に私を嫌いにならない、アオイはずっと私といたがってる。そのくせ「風花、わかってるよ。本当は寂しいんだよね」みたいな目で私を見るのよ。私のほうが頼ってるみたいなの。そしたら、ふと。あ

あ、うつつうしい、なんでもわかったような顔しないでよ。知らないくせに。私は一人で平気なのに、わざわざあんたにつきあってあげてるんでしょ。

葵
それって、

風花
葵の元お友達と同じ？やなやつでしょ。

葵
アオイ・・・さんはなんて？

風花
何も言わないで降りてった。

葵
・・・。

風花
そのあとがまたずるいのよ、私。ちよつとこう、ちくりと（胸が）痛い気がして葵を追いかけた。校門のところまで追いついたけど何も言えなくて。アオイはにこつて笑ってそのまま（行ってしまった）。それきり？

風花
空は真っ赤な夕焼けで、笑った顔が空と同じ色だね。

葵
・・・。

風花
そのあと、うちの近くの交差点で、突っ込んできた車にはねられて。

葵
・・・。

風花
アオイ、真っ赤で。夕焼け空よりも真っ赤で。

葵
真っ赤。

風花
だんだん暗くなってきて、救急車とパトカーのランプが真っ赤に点滅してて、

葵
事故だよ。

風花
雨が降り出した。おばさんびしょ濡れで。泣きながらアオイの名前を何度も何度も呼んで。

葵
事故だったば。

風花
もし私がああ時あんなこと言わなければ。校門でアオイを引き止めて、ひとことごめんて言ったら。

葵
アオイはきつとまだここにいた。

葵
事故・・・だったんだよ。

風花
事故じゃない。私がアオイを殺した。

葵 違うよ！

風花 アオイだつてそう思ってる。

葵 風花・・・

風花 アオイはね、笑つてた。動かなくなつても、まだアオイは笑つてたんだ。痛かった、のにね。
・・・。

風花 さんざんいじめられて痛みに慣れてたから、アオイは。

葵 そんな・・・

風花 でも、最後の痛みは私から。

葵 ・・・

風花 もう、楽になりたい。

葵 なんて、今なの。

風花 ？

葵 なんて・・・今さら。風花は絵があればひとりでも平気でしょ。

風花 このスケッチブックを貰つた時にアオイに頼まれたの。

葵 なんて

風花 これが全部埋まつたら、見せてほしいって。だから。約束だから。

葵 だから？

風花 見せに行くの。

葵 意味わかんない、その子はもういないんだよ？

風花 だから私がいくの。

葵 意味ないよ。

風花 償いなの。アオイに対する私の。

葵 風花のせいじゃない。

風花 私のせいだよ。友達のふりして、私の気まぐれで死なせて。全部私のせいなんだよ。

葵 風花・

風花 自分勝手にも程がある。こんなやつ生きてる意味ない。

葵 そんなこと

風花 思い知ったんだ。

葵 なにを。

風花 私はひとりぼっち。そばにいてくれる大事な人だったのに。なくしてしちゃった。自分のせいで。

葵 ひとりじゃないよ。

風花 もうスケッチブックはいつぱいなんだよ。

葵 まだ絵は描けるよ。

風花 もういつぱいなんだってば！

風花、いよいよ飛び降りそうに。

葵 風花！

葵、風花を必死で止める。

風花、身動きできない。

張り詰めた沈黙。

葵 風花。

風花 アオイ？ 来てくれたの。

葵 え。

風花 ほら見てアオイ、こんなにいつぱい描いたよ。（スケッチブックを拾って）アオイのために描いたよ。

葵 なに。

風花 約束したスケッチブック。喜んでくれる？

葵・・・

風花 いや、わかってる。許してくれないよね。

葵 誰と話してるの。

風花 笑ってよアオイ。

葵・・・笑えない。

風花 そっか。でもせめてこのスケッチブックだけは受け取って。

葵 風花。

風花 アオイのために描いたよ。

葵 風花、わたし。

風花 ダメ？そっか、そうだよね。

葵 風花。

風花 やっぱりそっちに行かなきゃダメだよね。

葵 私はアオイじゃないって！

風花 今から行くよ、アオイ。

葵 だめ！

風花 すぐに行くよアオイ、

葵 風花！

風花、身を乗り出して止まる。

風花 ・・・・でもね私、足が動かないの。動けって言ってるのに動いてくれないの。私はアオイのところに行きたいのにどうしても身体がいうことかなくて、

葵 風花、聞いて！！

風花 どうしようアオイ、私まだ生きてる。生きてちやいけないのに。こんなダメな人間なのに、まだ生き

たいなんて思ってる。

葵
風花！！

風花 どうしようアオイ、私、怖い。行かないやいけないのに、怖くて。・行かないや、行かないや！

葵、風花の頬を叩く。風花が取り落としたスケッチブックを拾い上げる。

葵
私は葵！！

葵、スケッチブックを破り捨てる。

風花
やめて！

葵
やめない！

風花
やめて！アオイ！許して！

風花、ちぎれたスケッチブックを拾い集める。

葵
風花。

風花、言葉にならない言葉をつぶやいている。

葵
風花！

風花
（つぶやき）

葵
風花！！

風花
！？

葵 わたしは葵！ 土田、葵！

風花 葵・・・？

葵 そう、葵。風花が助けてくれた葵。今生きてる葵。

風花 葵・・・

葵 私がいるよ。

風花 ・・・

葵 生きよう。

風花 私は生きていい人間じゃない。

葵 生きちゃいけない人間なんていない。

風花 私が生きてても世界は何も変わらない。

葵 変わらなくていい。死んだってどうせ変わらない。

風花 生きる理由がない。

葵 理由なんていらぬ。でも、ほしいなら私があげる。

風花

葵 ？

葵 風花、私のために描いて。今度は私のためにここにきて。

風花 葵のため。

葵 私は風花と生きていたい。風花のいるこの世界で。だから描いて。

風花 また描くの。まだ生きるの。

葵 そう、生きるの。描いて、食べて、しゃべって、笑って、寝る。それだけ！

風花 そんなの、苦しい。

葵 苦しくても、私は、風花と生きたい。

風花 そんな勝手な。

葵 勝手だよ。私たちみんな勝手なの！私は風花と生きたい！

風花 ・・・

葵 生きよう。

風花 怖い。

葵 怖くても生きなきゃ。

風花 でも、こんな、

葵 こんななんて言うな。

風花 !

葵 私の大好きな風花を、こんな、なんて言うな！
でも、

風花 いいんだよ！ 風花は、生きていいんだよ。

葵 ・ ・ ・ いいの？

風花 もちろん。だって私、風花のこと大好きだから。

風花 ・ ・ ・

葵 風花の心が生きたいって叫んでるのが、私には聞こえる。

風花 ・ ・ ・

葵 また始めよう。

風花 なにを。

葵 新しいスケッチブックをあげる。

風花 ?

葵 私と風花の大切な場所を、今から作るの。

風花 できるかな。

葵 できるよ。ああ、わくわくしてきた！ 私、生きてる！

風花 わたし・ ・

葵 風花もそう思ってくるといいな。いつか。
風花 いつか。

葵 そう。そのいつかが来るまで、私、そばにいるよ。

風花 ・ ・ ・

葵 真っ白なスケッチブック抱えて、ここで風花を待ってる。

風花 葵。

葵 なに？

風花 葵。

葵 なーに、風花。

風花 葵。

葵 ？

風花 ありがとう。

葵、風花を抱きしめる。風花、声をあげて泣く。

音楽 F.I 溶暗

音楽 F.O. 溶明

青い空に誰もいない屋上。風花のイーゼルとキャンバス、椅子。
葵がゆっくりと入ってくる。

イーゼルの前に立ちキャンバスを手取る。

それを空に掲げて見る。葵、ぽつりと、

葵 青いね

葵、空を見上げる。

声　　こらーっ！　何やってるんだこんなところで！
葵　　すみませんっ！！

葵、固まっていると、風花が大笑いしながら現れる。

風花　（笑いつつ）その顔ー！
葵　　もう、ひどい風花！

音楽 C.1

ふたり、楽しそうにはしゃいで、屋上を後にする。
音楽が高まり、風花のイーゼルが浮かび上がる。幕。

E
N
D

県大会バージョンのラストシーン

葵　こんななんて言うな。

風花

！

葵　私の大好きな風花を、こんな、なんて言うな！

風花

でも、

葵　いいんだよ！　風花は、生きていいんだよ。

風花

・・・いいの？

葵　もちろん。だって私、風花のこと大好きだから。

風花

・・・

葵　風花の心が生きたいって叫んでるのが、私には聞こえる。

風花

・・・

葵　また始めよう。

風花

なにを。

葵　新しいスケッチブックをあげる。

風花

？

葵　私と風花の大切な場所を、今から作るの。

風花

できるかな。

葵　できるよ。ああ、わくわくしてきた！　私、生きてる！

風花

わたし・・・

葵　風花もそう思ってくるといいな。いつか。

風花

いつか。

葵　そう。そのいつかが来るまで、私、そばにいるよ。

風花

・・・

葵　真っ白なスケッチブック抱えて、ここで風花を待ってる。

風花

葵。

葵 なに？

風花 葵。

葵 なーに、風花。

風花 葵。

暗転

風花 ありがとう。

溶明

青い空に誰もいない屋上。風花のイーゼルとキャンバスだけが残されている。

葵がゆつくりと入ってくる。

イーゼルの前に立ちキャンバスを手取る。

それを空に掲げて見る。葵、ぽつりと、

葵 青いね

葵、空を見上げる。

背後から扉の音。

葵、振り返る。はっとしたまま、幕。

END